

1. 公益重視の管理経営の一層の推進

国土の保全や生物多様性の保全等、公益的機能の維持増進を旨として、森林整備事業や治山事業の計画的かつ効率的な実施、森林生態系の保全・管理などを通じて、公益林として適切に管理経営します。

(1) 天然力を活用した多様な森林づくり

天然更新を活用したトドマツ人工林の新たな施業タイプの開発、地表処理等による天然更新施業の技術の確立、モザイク施業等を活用した育成複層林への誘導等により、天然力を活用した多様な森林づくりに取り組みます。

【天然更新を活用したトドマツ人工林の新たな施業タイプの開発】



後継樹が見られるトドマツ林において、伐採後に植栽を行わずに次世代の森林をモザイク的に造成し、育成複層化を目指します。

【地表処理等による天然更新施業技術の確立】



人工林の伐採跡地において大型林業機械を使用して地表処理を行い、広葉樹の進入を促す技術の確立に取り組みます。

1. 公益重視の管理経営の一層の推進

(2) 希少種の保護管理等

シマフクロウ生息環境整備地域の整備とモニタリングやレブンアツモリソウの固定プロット調査等、希少野生動植物の保護管理を適切に実施します。

【シマフクロウ生息環境の整備(水流の段差解消)】

シマフクロウの生息環境の改善を目指した取組の一環として、シマフクロウの餌となるハナカジカが遡上できるように、林道横断管の段差を解消しました。平成26年に改良を行った翌年、林道横断管の上流部でもハナカジカの生息が確認されました。



【レブンアツモリソウ生育個体数調査】

礼文島最大の群生地である鉄府^{てつぷ}地区約30haでは、生育個体数に関する信頼性の高い調査報告が存在しませんでした。平成24～27年度に実施したラジコンヘリを用いた調査により、推定4千3百株のレブンアツモリソウが生育することがわかりました。



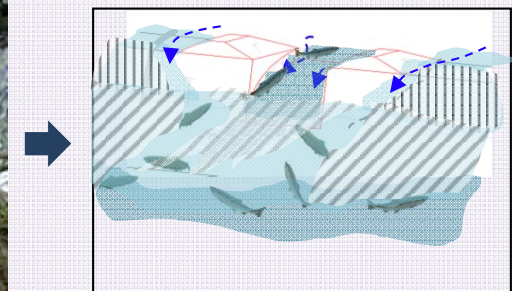
27年度に改良した治山ダムの改良効果を検証しつつ、斜里川流域における河川工作物の改良工事に引き続き取り組みます。

【平成27年度魚道改良工事箇所（斜里川3号床固工）】



中央部を改良し、階段状の魚道を設置しています。

【平成28年度 魚道改良工事予定箇所と完成イメージ】



1. 公益重視の管理経営の一層の推進

(3) 山地防災力の強化

災害に強い健全な森林づくりを進めるとともに、崩壊地等の早期の復旧整備や、事前防災・減災対策に取り組みます。実施にあたっては生物多様性への配慮や木材利用の推進に努めます。

いかんたい
【浦河町字井寒台：平成25年度 山腹工事施工箇所】

崩壊地の復旧と拡大防止の予防対策の実施にあたって、周辺環境や景観にも配慮してできるだけ立木を残し、山腹固定工や木製枠土留工等の工事を実施。現在は周囲の風景となじんで工事箇所が目立たない状況です。



(平成25年12月 工事完成時)

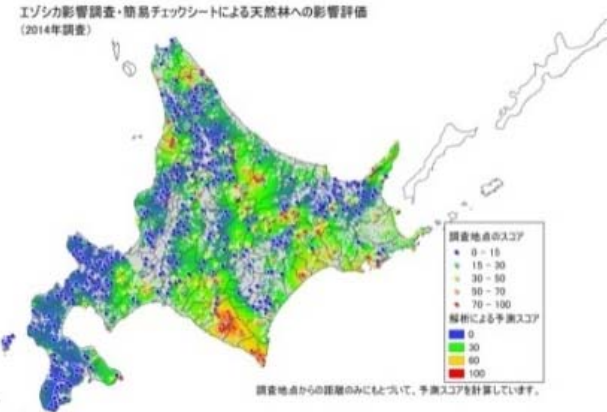


(平成28年4月 完成後2年経過)

1. 公益重視の管理経営の一層の推進

(4) エゾシカ被害対策の推進

北海道と連携した被害調査、囲いワナ及び誘引狙撃による捕獲、狩猟者の利便性の向上などに加え、平成28年度は、エゾシカ対策の技術向上に向けて、移動式小型囲いワナと誘引狙撃を組み合わせる森林内で機動的に捕獲を行う手法の検討（石狩署、空知署）、捕獲個体の活用推進（知床森林生態系保全センター、宗谷署、根釧東部署）などに取り組めます。



エゾシカ森林被害マップ



囲いワナ及び誘引狙撃による捕獲（H26実績299頭→H27実績928頭）。（写真はモバイルリングによる車上からの狙撃）



移動式小型囲いワナと誘引狙撃を組み合わせる森林内で機動的に捕獲を行う手法を検討。（写真は小型囲いワナによる捕獲）



食肉加工業者との協定による囲いワナ捕獲や囲いワナの改良により、生体捕獲による個体の活用を推進。（写真は生体捕獲したエゾシカの搬出）



一括入林申請合同説明会の開催により狩猟者の利便性を向上。H27年度の申請者は3,836名。

1. 公益重視の管理経営の一層の推進

(5) 森林環境教育・木育活動の推進

平成28年から8月11日が国民の祝日「山の日」となることも踏まえ、北海道と連携して、道民との協働による森林づくりを進めます。植樹祭をはじめとするイベントの開催や情報発信など、森林環境教育・木育活動に取り組みます。



(6) アイヌ政策への貢献

平成25年4月に、北海道森林管理局、北海道アイヌ協会平取支部、平取町との間で締結した「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画～コタンコロカムイの森づくり～」包括協定に基づき、平取町内の国有林において、北海道本来の森林の再生等に取り組みます。

また、道と連携し、伝統的工芸品「ニ風谷アットウシ」の原材料となるオヒョウニレの安定的な供給に取り組みます。

アイヌ文化の伝承に必要な広葉樹の育成作業部会による現地検討（平成27年9月）



アットウシ織

オヒョウ等の樹皮から作った糸を織ったアイヌの織物

